

令和7年度厚生労働科学研究費補助金
(障害者政策総合研究事業)

強度行動障害を有する知的障害・発達障害に関わる医療従事者向け
研修プログラム開発に向けた研究 (24GC1007)
分担研究報告書

「チャレンジング行動の理解」「チャレンジング行動の機能の分析に基づく対応」
講義資料及び講義ビデオの修正

分担研究者：井上雅彦（鳥取大学）

研究要旨

令和6年度に「チャレンジング行動の理解」「チャレンジング行動の機能の分析に基づく対応」の講義資料及び講義ビデオ、ワークショップ用プログラムを作成した。今年度はこれらを用いて、動画視聴・オンライン・実地の3段階から成る研修を試行し、その結果に基づいて研修プログラムの修正・追加を行った。

A. 研究目的

強度行動障害の状態にある人への支援において、その中核となるのが「機能的行動アセスメント (Functional Behavioral Assessment : FBA)」である。問題とされる行動は、本人の意思の弱さや障害特性そのものから生じる不可解な現象ではなく、何らかの先行事象によって引き起こされ、それに続く結果事象によって維持されている、本人なりの「意味」をもった行動である (Iwata et al., 1994 ; Emerson & Einfeld, 2011)。FBAはこの行動と環境との相互作用を体系的に把握し、行動が果たしている機能(要求、回避・逃避、注目、感覚刺激など)を明らかにする枠組みであり、氷山モデルシートやストラテジーシートの作成 (井上, 2007)、すなわち根拠に基づく支援計画の立案を支える共通の土台となるものである (Beavers et al., 2013 ; Carr & Durand, 1985)。

医療の現場においてこの視点は特に重要である。専門診療はもとより一般診療、検査・処置の場面で生じる不適応行動は、しばしば「強度行動障害だから」と一括りにされ、行動制限や鎮静を目的とした

薬物療法によって対応されがちである (厚生労働省, 2023b ; 會田, 2023 ; 金, 2015)。しかし、その行動が痛みや不安の回避なのか、見通しの立たなさによる混乱なのか、あるいは要求の表出なのかを機能的にアセスメントすることで、プレパレーションや環境調整といった、より侵襲性の低い介入が選択可能になる。FBAは、行動制限の最小化と薬物療法の適正化を単なる理念ではなく具体的な臨床判断として実現するための、不可欠な手続きである (NICE, 2015)。

さらに、機能的行動アセスメントは福祉・教育・医療の各分野を横断する「共通言語」としての役割を担う (厚生労働省, 2023a ; 日詰ら, 2022)。同じ枠組みで本人の行動を理解し記録することによって、病院内での観察や対応が地域の支援チームに引き継がれ、地域ケア会議の場で連携した支援へと展開していく。医療従事者がこのアセスメントの考え方と技術を習得することは、治療を病院の中だけで完結させず、本人が地域で生活し続けることを支える支援体制の一端を担うことを意味している。

今年度はこれらを動画視聴・オンライン・実地の3段階から成る研修を試行し、その結果に基づいて研修プログラムの修正・追加を行った。

B. 研究方法

令和6年度に作成した講義、ワークを用いて、動画視聴・オンライン・実地の3段階から成る研修を試行する。その試行結果に基づき、本研究班会議において講義、ワークの内容を検討し、修正を加えた。
(倫理面への配慮)

本研究では公表されている既存の資料を用いた構成としており、個人情報を取り上げていない。

C. 研究結果

「チャレンジング行動の理解」(基礎編)は、医療従事者向けの「強度行動障害チーム医療研修(岡田班)」基礎編の一コマとして、福祉領域と共通の「標準的な支援」の核となる機能的行動アセスメント(FBA)の考え方を共通言語として獲得させることが目的となっている。具体的には、(1)「問題行動」を本人の障害特性に帰す見方から、環境との相互作用で学習された「チャレンジング行動」へとパラダイムを転換させ、(2)ABC 枠組みによる機能の理解を提示し、(3)それを医療場面に応用し、(4)抑制的対応(罰・強制)から事前の工夫+代替行動指導への移行を促し、(5)親への配慮と地域チームづくりで締め、という構成となっており、R4 検討会報告書、IDEA、NICE を引いて政策的・エビデンス的な裏づけも与えている。

「チャレンジング行動の機能の分析に基づく対応」(応用編)は基礎編(オンデマンド)でFBAの概念的理解を得た受講者に対し、対面ワークを通じて機能的行動アセスメントを実際に「実施」し、ストラテジーシート(=行動介入計画/BIP)を「記載」できるようにすることが狙いとなっている。機能的行動アセスメントについては、間接評価(FAST)・直接評価(ABC 記録・スキュータープロット)・支援計画立案までの一連のワークフローを、模擬事例と演習で体得させる設計となっている。「具体的な情報収集・観察記録・ストラテジーシートの記載ができること」と

いう目標に対して、医療保護入院・退院移行という医療文脈に事例を置いて解説している。

ワークは応用編講義で扱ったFBA・構造化の概念を、多職種チームのグループワークを通じて模擬事例に実際に適用し、ケースシートとストラテジーシートを具体的に「記載できる」ようにすることが狙いとなっている。BPI-S→FAST→ABC 行動観察→ストラテジーシートという機能的行動アセスメントの全工程を、「事前の対応の工夫」「ほめ方と楽しいな活動」「起こってしまった時の対応」の各セクション記入と再評価まで、個人ワーク→グループ討議のサイクルで体得させる内容となっている。

今年度行った試行から、特に講義とワークの接続性を改善することで受講者にとって講義で学んだ内容が模擬実践に生かせるように修正がなされた。

D. 考察

今後、機能的行動アセスメントについて、医療固有の意義の明確化が必要である。FBAと環境調整を、身体拘束の最小化や向精神薬の適正化という医療アウトカムに明示的に接続することで、医療従事者の動機づけと到達度が高まる。また連携と全国展開で、地域ケア会議や退院移行のグループワークをさらに具体化し、福祉・教育との横断的運用を進める必要がある。あわせて、ファシリテーター向けの運用ガイド整備や講師養成・標準化を行い、研修効果を客観的に検証しながら、本プログラムを全国へ展開していくことが求められる。

E. 結論

本研修は、強度行動障害の状態にある人への医療において、機能的行動アセスメント(FBA)を福祉・教育と共通の枠組みとして医療従事者に習得させることを目的としている。基礎編(オンデマンド)では、チャレンジング行動を環境との相互作用の中で学習された適応と捉え直し、ABCの枠組みと行動の機能、エビデンスと法制化を解説する。応用編では、BPI-Sによる全体把握からFAST、ABC行動観察を経てストラテジーシートを作成する一連の流れを、精神科病棟の模擬事例を用いて段階的に提示し、ワークでは多職種チームのグループワークとして事前

の工夫・強化・危機対応の記載を体得させる。抑制や行動制限に依らず、環境調整と代替行動の指導によって診察・処置・病棟生活上の困難を支援へと転換し、退院後の地域生活までを見据えた、共通言語に基づくチーム医療の基盤づくりを志向する構成である。今後も研修を重ねながら全体研修の中での本パートの整合性を検証しつつ、改訂作業を継続的に実施していきことが求められる。

【文献】

- 1) 厚生労働省(2023a) 強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書
- 2) 會田千重(2023) 入院中の強度行動障害者への支援・介入の専門プログラムの整備と地域移行に資する研究 厚生労働科学研究報告書
- 3) 厚生労働省(2023b) 障害者総合福祉推進事業 強度行動障害を有する者の一般医療受診に関する実態調査 「強度行動障害といわれる状態にある当事者の歯科を含む一般身体医療受診に関する調査」
- 4) 日誌正文 吉川 徹 樋端佑樹(編)(2022) 対話から始める 脱! 強度行動障害 日本評論社
- 5) 金樹英(2015) 平成27年度 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修) 講師用資料 「強度行動障害と医療」
- 6) 特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク(監修)(2020) 強度行動障害のある人の「暮らし」を支える: 強度行動障害支援者養成研修[基礎研修・実践研修]テキスト 中央法規出版
- 7) 井上雅彦(2007) 行動障害の理解と支援 特別支援教育士資格認定協会(編) 特別支援教育の理論と実践: S. E. N. S 養成セミナー標準テキスト[第2版] 金剛出版
- 8) Beavers, G. A., Iwata, B. A., & Lerman, D. C. (2013) Thirty years of research on the functional analysis of problem behavior. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 46(1), 1-21.
- 9) Carr, E. G., & Durand, V. M. (1985) Reducing behavior problems through functional

communication training. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 18(2), 111-126.

- 10) Emerson, E., & Einfeld, S. L. (2011) *Challenging Behaviour: Analysis and Intervention in People with Severe Intellectual Disabilities* (3rd ed.). Cambridge University Press.
- 11) Iwata, B. A., Dorsey, M. F., Slifer, K. J., Bauman, K. E., & Richman, G. S. (1994) Toward a functional analysis of self-injury. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 27(2), 197-209.
- 12) National Institute for Health and Care Excellence (2015) *Challenging behaviour and learning disabilities: prevention and interventions for people with learning disabilities whose behaviour challenges* (NICE guideline NG11).

G. 研究発表

井上雅彦(2025) 強度行動障害へのエビデンスに基づく支援—機能的アセスメントによるアプローチ—, *児童精神医学とその近接領域*, 66(1), 37-44.

Koyama, H., Yamanaka, T., Maegaki, Y., & Inoue, M. (2025). A Pilot Pre-Post Study of an Internet-Based Sleep Education Program for Parents of Children with Autism Spectrum Disorder and Sleep Disturbance in Japan. *Yonago Acta Medica*.

Yamanaka T, Yuruki K, Koyama Y, Koyama H, and Inoue M. (2025). A pilot study of an online behavioral parent training program for children with selective mutism: feasibility and preliminary effectiveness. *Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health*

岩橋由佳 井上雅彦(2025) 発達特性を有する子をもつ親への思春期版ペアレントトレーニングの地域展開—不登校を支援する地域の事業所と発達障害者支援センターとの共同実践— 鳥取心理臨床研究, 18. 印刷中

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし